

経済レポート

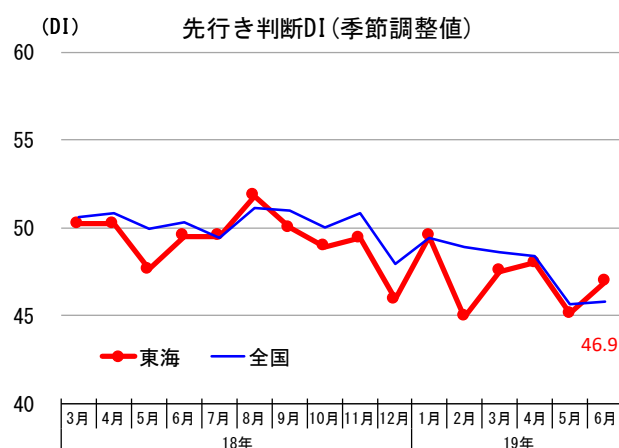
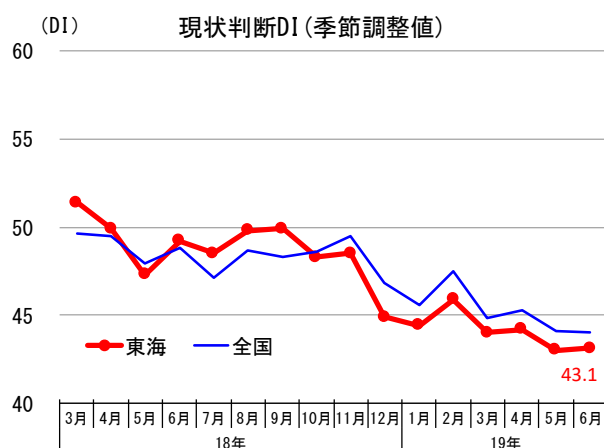
景気ウォッチャー調査(東海地区:2019年6月)

～ 現状判断DIは2ヶ月ぶりに上昇～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 7月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の6月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+0.1ポイントの43.1と2ヶ月ぶりに上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+1.8ポイントの46.9と2ヶ月ぶりに上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

弱い動きが見られる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念がみられる。

とまとめ、基調判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、節約志向の高まりや外需の不透明性などが懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念がみられる。

とまとめている。

(前月のまとめ)

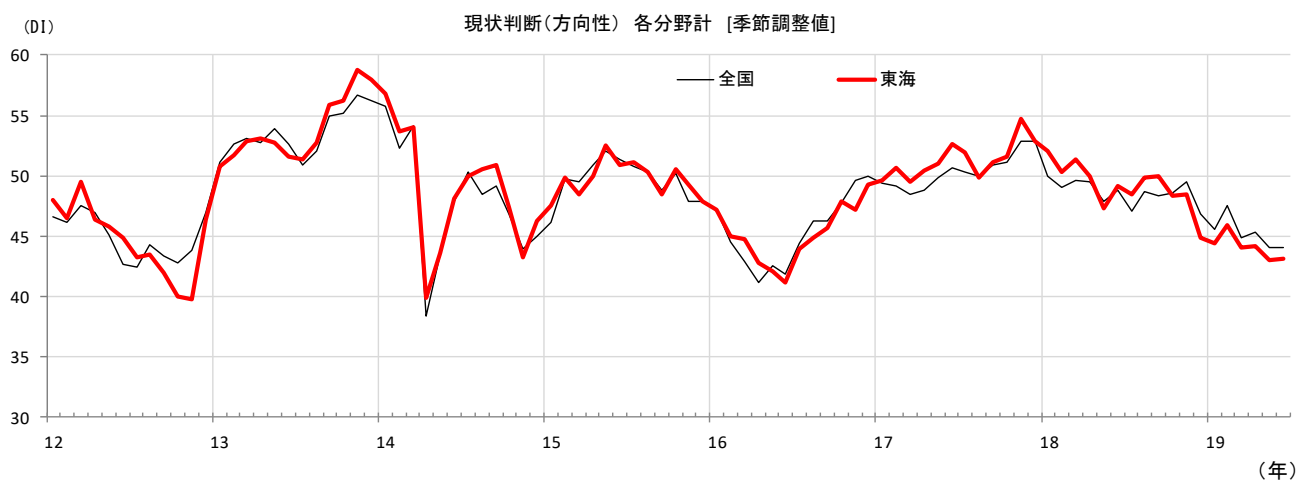
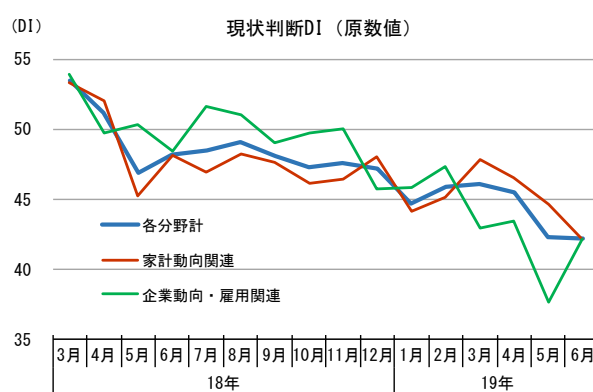
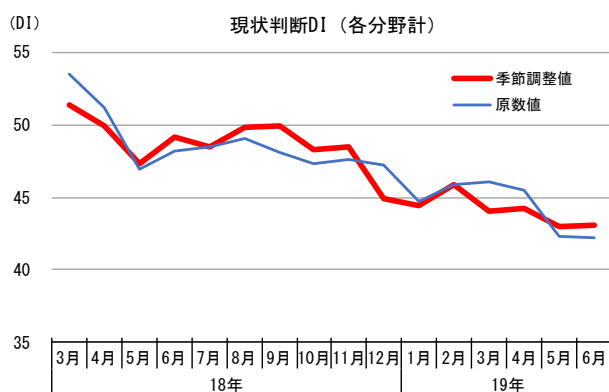
「このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念がみられる。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

（1）DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²（季節調整値）は、前月差+0.1ポイントの43.1と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を15ヶ月連続で下回った。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-2.4ポイントの42.2と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+4.5ポイントの42.2と上昇したが、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は227、うち家計関連153、企業・雇用関連74。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI（原数値）は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 足下では消費税率引き上げ前の駆け込みの動きは鈍く、むしろ節約志向が高まっているようだ。

□	家電量販店(店員)	消費税増税となるから買っておこうという人が、予想より少ない。
□	乗用車販売店(営業担当)	時期的に、消費税増税前の駆け込み需要があってもいい頃だと思うが、余り販売台数も増えてこない。
▲	その他飲食[ワイン輸入](経営企画担当)	消費税の増税を見据え、節約しようと思うという声を聞く機会が増えている。
×	一般レストラン(経営者)	年金問題などの情報が非常に行き渡り、将来不安もあり消費が停滞している。

- インバウンド消費も勢いを欠いてきている模様だ。

▲	百貨店(経理担当)	訪日外国人旅行者がこれまで消費をけん引してきたが、最近では世界経済の減速と円高から、力強さを失っている。
×	テーマパーク(職員)	インバウンドが減った。国内からの旅行者も減っている。

【企業動向・雇用関連】

- IT関連の動きは良好なようだ。

○	金融業(従業員)	IT企業、AI関連は比較的伸びが感じられる。住宅関係にも良いところがある。
○	その他サービス業[ソフト開発](社員)	取引先の客においてIT投資が活発である。要因としては、パソコンの主要OSが2020年1月でサポート終了となる。
□	通信業(法人営業担当)	世間では、景気が落ち込んできているといったイメージだが、正直、変わらないという実感である。仕事を通して感じるのは、ホテルの建設ラッシュが目立つ。担当エリアでは各市町で建築完了又は建設中の物件がある。また、50戸程度のマンションの建築も目立つ。

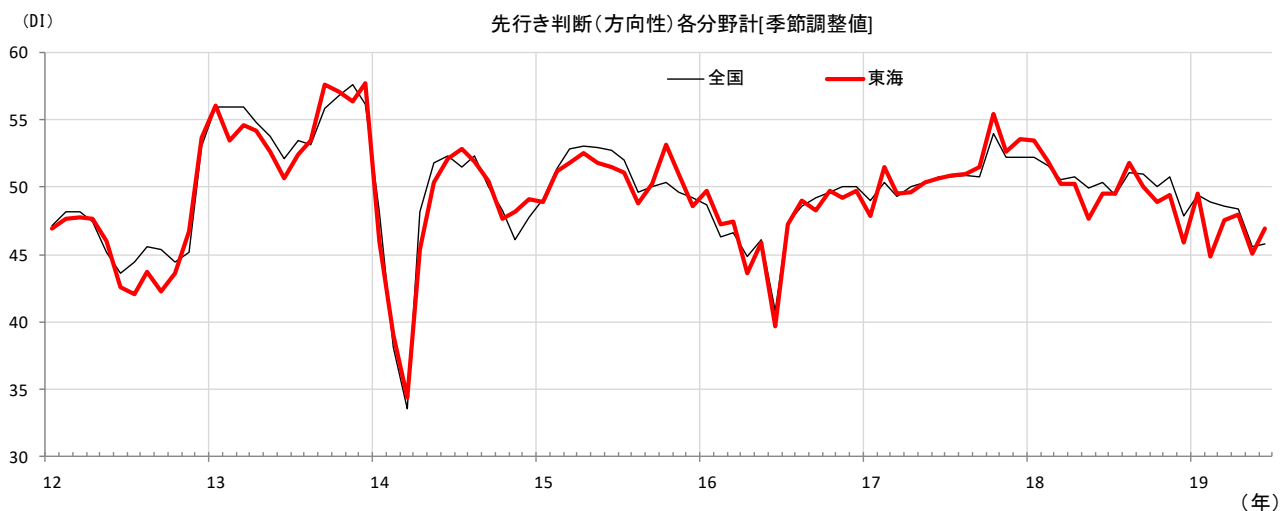
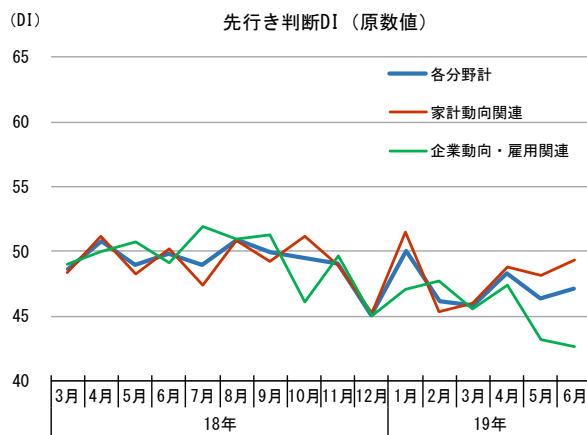
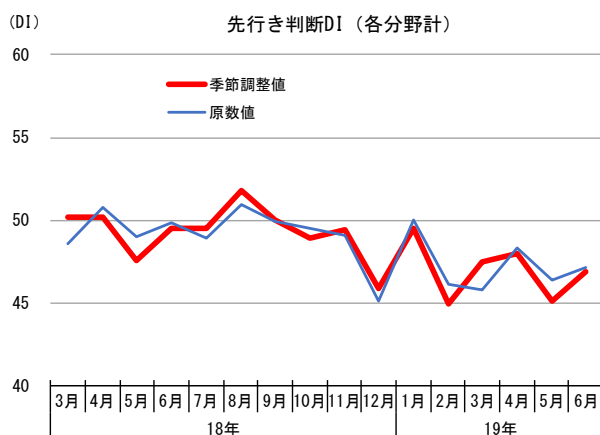
- 国内需要が堅調でも、米中貿易戦争は重しとなっているようだ。

□	電気機械器具製造業(企画担当)	米中貿易問題が重しになっているが、需要は堅調である。
▲	輸送業(経営者)	国内の物量に大きな変化はないが、日中間の輸出入の件数が10%ほど落ち込んでいる。米中貿易摩擦並びに中国の景気の影響と思われる。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+1.8ポイントの46.9と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を9ヶ月連続で下回った。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+1.2ポイントの49.3と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。一方、企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-0.6ポイントの42.6と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を9ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

- 先行きに関しては、消費税率引き上げ前の駆け込みに期待するコメントが多いが、買い控えなど負の影響を懸念する声も散見される。

◎	百貨店(業績管理担当)	消費税の引上げを控え、8~9月に駆け込み需要が見込まれる。
○	商店街(代表者)	消費税増税前の耐久財の買換えが若干は増えると思われる。
○	乗用車販売店(従業員)	9月まで消費税増税の駆け込み需要が見込まれる。ただ、最近の客との話の中で、米中貿易摩擦の影響で勤め先の状況が余り良くないという声を聞く。また、タンカーの攻撃などでガソリンの価格が上がるのではないかという声を聞く。特にガソリン高や給与の減少は、高額商品の自動車には水を差すことでもあるので、若干不安でもある。
□	一般小売店[生花](経営者)	消費税が10%になることが客との会話でもときどき出てくる。やはり買い控えが起きるとされる。決して良くなるとは思えない。
□	スーパー(ブロック長)	10月の消費税増税を控え、お盆明けから9月一杯は駆け込み需要が見込まれるが、それを上回る反動が必ず来る。
□	乗用車販売店(営業担当)	消費税増税前の駆け込み需要も余りなさそうな気配であり、いろいろな物の値段が上がってきていて、景気が良くなる要因が見当たらない。米国と中国の貿易摩擦の行方によっては、悪くなる可能性もある。

【企業動向・雇用関連】

- 米中貿易摩擦の影響を懸念する声引き続き散見される。

▲	パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	直接の取引はないが、間接的には中国向けの出荷が減少しており、その影響で今後は景気が悪くなる。
▲	輸送業(経営者)	国内消費に伴う物量は堅調そうだが、貿易関連は在庫調整に入っているように思われる。
▲	輸送業(役員)	消費税アップを前に消費が一時的に伸びる見込みであったが、一向にその兆しが見受けられない。米中の貿易問題やイラン問題での石油価格問題、年金問題など、不安材料が山積しており景気が回復する気配が乏しい。
▲	職業安定所(職員)	中国の景気減退の影響で、県内の一部の製造業への影響も出始めている。介護・接客・サービスなど他業種については人手不足ではあるが、事業所の規模も考慮すると、やや悪くすると見込まれる。
▲	職業安定所(次長)	米中貿易摩擦の不透明感から製造業を中心に様子見感があり、懸念材料となっている。
▲	職業安定所(次長)	米中関係の動向により受発注等に影響が出ているとの声が求人者から聞かれるようになった。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。